

地震防災マップ

揺れやすさマップ

このマップは、長門市に大きな影響を及ぼす可能性のある地震として「1. 浜木断層による地震」、「2. 東南海・南海地震」、「3. 全国どこでも起こりうる直下の地震」の3つを想定し、それらの地震で予想される震度を示したものです。

このマップを使って、確認してみましょう。

- 自分の家が建っている場所はどれくらい揺れるのか。
- よく行くところ、よく通る場所はどれくらい揺れるのか。

揺れやすさマップの作成方法

このマップの作成にあたっては、おおよそ次のような手順で震度（揺れの大きさ）を予測しています。

整 理

長門市域に影響の大きいと考えられる地震を選び、震源となる断層の規模や位置、形状などの情報を設定します。

計 算

それぞれの地震について、規模や震源となる断層までの距離と揺れの強さの関係があることを用いて、「地表面付近の揺れの大きさ」を計算します。

想定地震	1. 浜木断層による地震	2. 全国どこでも起こりうる直下の地震	3. 東南海・南海地震
地震の概要	長門市東部の直下を約15kmの長さでのびる断層が動くことを想定しています。この断層は浜木断層をモデル化したものでマグニチュード6.8の規模と想定しています。	まだ確認されていない活断層が活動し地震を起こす可能性もあります。そこで、長門市の直下でマグニチュード6.9の規模の地震が発生することを想定しました。	南海トラフに震源を有する地震で東南海地震と南海地震が同時に発生する場合を想定しました。マグニチュード8.5の規模と想定しました。
想定マグニチュード	6.8	6.9	8.5
長門市で想定される震度	震度5弱～震度6強	震度5強～震度6強	震度4～震度5弱
震度分布			

3つの地震を重ね合わせています。

この地図で表示している範囲

凡 例

揺れやすさ(震度)

震度6強

震度6弱

震度5強

震度5弱

震度4

揺れやすさマップの全体図

地震防災マップ

建物危険度マップ

このマップは、地震による揺れによって発生する建物被害の分布をあらわしています。
揺れやすさマップで示した強さ（震度）の揺れとなった場合に、その地区単位ごとで建物に生じる被害がどの程度かの評価をあらわしたものです。

このマップを使って、確認してみましょう。

- 自分の家や近所の危険度（全壊率）はどのくらいか。
- 通っている職場や学校などの危険度（全壊率）はどのくらいか。

地域危険度マップの作成方法

このマップの作成にあたっては、おおよそ次のような手順で建物被害の程度（建物全壊率）を予測しています。

整 理

長門市域の建物の分布状況を整理します。建物が全壊する可能性は建築年代や構造によって異なるため、建物分布は建築年と構造を区別して把握します。

計 算

過去の地震被害記録から求められた震度と全壊率の関係から、各地域での全壊率を計算します。

※このマップに示す建物全壊率は、地域として建物被害の危険性を示したものであり、個別の建物の危険性を示すものではありません。

危険度(全壊率)

40%以上

30%以上 40%未満

20%以上 30%未満

10%以上 20%未満

5%以上 10%未満

5%未満

凡 例

揺れやすさ(震度)

震度6強

震度6弱

震度5強

強

揺れ

弱

避難場所

医療機関

警察署

消防署

市役所・支所・出張所

急傾斜

土石流

地すべり

国道

県道

主要市道・農道

JR

N

0 500m 1,000m

1:18,000